

日時 平成 21 年 8 月 26 日 (水)  
午後 3 時から午後 4 時まで  
場所 明治安田生命ビル 2 階

【川崎都市計画道路事業 荻宿小田中線 ( 期 )】

( 事業局からの事業説明の後、審議 )

【委員】 再評価実施事業調書の再評価の視点に安全で安心な歩行空間の確保とあるが、先ごろ、トンネル部分における痛ましい事件の報道があったが、例えば夜間の通行時などに、どのような安全確保の方策がこの事業に盛り込まれているか。

もう 1 つは、B/C について、どういう費目をいれるかで、比率が上下に振れることが考えられるが、今回の場合はどうか。例えば、踏切をなくすことによってアイドリ  
ングが減り、空気が浄化されるなど環境負荷が低減するようなことも考慮されている  
のか。

( 建設局 ) トンネルの部分は 1.1 m 位であるが、何かあった場合に逃げ場がないことは  
確かであるが、明るさを 50 ルクスとし、十分な明るさを確保する。必要であれば、側  
面を明るくするとか、また、青色の明かりも治安に有効ということを知っているが、  
今後も防犯対策について、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

B/C について、市内対象区域の 24 地点について、再現性の確認を行い、シミュレ  
ーションの妥当性について確認しているところである。本路線についても、再現性  
について、充分吟味しており、便益についても、精度の高いものであると考えている。

【委員】 項目には不確かなものを含めているのかという意味の質問である。

( 建設局 ) 不確かなものを省き、精度を高めている。便益について、走行時間短縮便  
益などにより定量的に評価している。

【委員】 用地取得率は 81% であるが、残り 3 年で、残りの箇所を買収できるか。

( 建設局 ) 平成 23 年度までに事業を完了できるよう該当用地の所有者に、引き続き交  
渉していく。

【委員】 アンダーパスについて、車にとっては好ましいが、高齢者にとっては、傾斜な  
どが負担となることがあるが、高齢者に配慮したものなのか。

(建設局) 2か所ほど、階段とEVを設置することを計画している。そのため、用地取得を進めている。また、傾斜については、「バリアフリー法(高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律)」に基づき設定している。

【委員】 どの自治体でも基本的には同じなのか。

(建設局) 「道路の移動円滑化整備ガイドライン」において、高齢者や車いすの方が歩きやすい基準が定められており、これに基づいていることは、他の自治体も同じである。

【委員】 踏切のEVの設置位置はどこか。

(建設局) 東横線の線路を挟んで本線の南側にそれぞれ設置する。西側は、用地取得済み。東側は用地所有者と交渉中である。

【委員】 線路の下には、既にボックスカルバートを設置しているとのことだが、これが、負債によるものであるとすると、完成しないことには、事業に生かされていないこととなる。事業は、速やかに執行すべきである。

それと、交通量推計結果について、整備ありとなしでは整備ありの場合が3千台増えているが、接続された宮内新横浜線を見ると、3千台増えていない。手法上は、まったくありえないということではないが、これでは市民にとって理解できないものとなる。分かりやすい説明が必要。

(建設局) 東急の複々線化事業と併せて施工したほうが、工事の影響も少なく、工事費用も安く済む。街路事業において、もっとも時間がかかるのは用地取得であるが、川崎市においては、着手後10年、取得率8割を超えると、土地収用法の適用を考えていくという基準があり、今後は収用も視野にいれ取り組んでいきたい。

また、推計についてであるが、市民に分かりやすい説明になるよう、あらためて工夫したい。

【委員】 よく確認して、市民に分かりやすく説明できるようにしてください。

(建設局) 了解した。

【委員】 交通量が多くなると、便益が大きくなるのか。

(建設局) 交通量が多くなると、走行時間短縮便益は影響を受ける。整備ありとなしの

差については、整備することで、鶴見溝口線など周辺の道路も含め効果が出ることとなる。

【委員】 下がり始めのところ、側道部と本線の交差する部分の構造はどうなっているか。

(建設局) ブリッジの取り付け部分であり、民有地の出入りの部分となる。

【委員】 歩道との高さの関係は。

(建設局) おそらく切り下げとなる。歩道の方が高くなる。

【委員】 工事期間中は通行止めとなるのか。

(建設局) ボックスの設置は終えているが、大きな構造物であるので、事業の工程においては、通行止めは警察との協議ででてくる可能性はある。

施工断面や工程もかなり詳細に検討した中で進めないと難しいと思う。

【委員】 一時的にせよ、地域への負担はどうかと思う。

(建設局) 工事車両の出入りもあるので、施工している間は、交通規制をすることが予想されるため、地域の方々には、周知を図り事業を進めていきたい。

【委員】 ゲリラ豪雨などへの対策は。

(建設局) アンダーパスの箇所には、ポンプを設置する。また道路パトロールなども建設センターに配置しており、道路状況を確認する。また、ポンプには自動の稼働状況を示す装置を備え、安全を確保する。想定以上の豪雨については、冠水してしまうこともあるかもしれないが、交通管理者である警察や消防と連携して交通止めなどで対応していきたい。

【委員】 情報ネットワークといったものが、どうしても大事になってくるが、他都市において、災害時に警報がうまく伝わらなかったということがあったが、そうした連絡の不手際を未然に防ぎ、確実に対応してもらいたい。

(建設局) 警報がでた段階で、道路パトロールが待機することとなるが、安全については、充分確保していきたい。

【委員】 最近、冠水した例はあるか。

(建設局) 道路の冠水例はあるが、近年においては、アンダーパスで、車が沈むほどの冠水はない。

【委員】 今回の対象ではないが、2期の見通しはどうか。

(建設局) 1期事業の完成後に事業を行う予定である。平成24年度には着手したい。

【委員】 他になければ質疑はこれで終了する。